中等教育研究開発室年報　第 35 号（2022 年 3 月 31 日発行）別冊電子版
2021 年度　授業実践事例

芸術（音楽）科　中学校第 2 学年

協同的な合唱の組み立て～グループワークを通して～

授業者　原　寛暁

（教育研究大会　公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校　音楽科　学習指導案

指導者　原　寛暁

日　　時　令和 3 年 11 月 27 日（土）　第 2 限 10:35～11:25
場　　所　第 2 音楽教室
学年・組　中学校 2 年 A 組　42 人（男子 22 人　女子 20 人）
題　　材　協同的な合唱の組み立て　～グループワークを通して～
混声 3 部合唱「心の瞳」（作詞 荒木とよひさ／作曲 三木たかし／編曲 横山潤子）
目　　標　1. 自律的な合唱活動を行うことができる。（知識・技能）
2. 自らの演奏を聴き，分析的かつ客観的に課題を発見できる。
（学びに向かう力，人間性等）

指導計画（全 7 時間）
第一次　楽譜配布とパート別の音取り　2 時間
第二次　初合唱と録音鑑賞と演奏分析，音楽的要素別のグループ編成合奏　　3 時間
第三次　グループ研究とまとめ，それに基づいた練習内容の吟味　2 時間（本時 1/2）

授業について
教材観：本題材は，かつて国民的歌手と呼ばれた坂本九氏の，生涯最後の楽曲として知られている。坂本氏の没後混声 3 部合唱に編曲され，今でも世代を超え多くの人に愛されている不朽の名作である。この曲のメインテーマは「愛＝家族愛」であり，歌詞と旋律ともに優しさに溢れ，3 部合唱になったハーモニーも魅力的で，中学生にも人気の高い合唱曲の一つである。
生徒観：対象クラスの生徒たちは，今年度に入り 1 学期の間は（感染症対策の一環であったが）歌唱活動は意図的に避け，主にギターの活動で終えている。したがって，合唱活動は夏休み明けの 2 学期からスタートした。もともと合唱活動には前向きな学年だったものの，合唱活動そのものに慣れるためには 1 か月以上の時間が必要であった。この時期は教育実習期間であったため，音楽科教育実習生（大学生）の協力を得ながら徐々に活動に慣れていき，目下の目標は自分たちで目標を設定し自己評価し，活動を自律的に成立させるということである。
指導観：この教材を扱った合唱活動を通して，楽曲を音楽的要素に基づいて適切に分析（アナリーゼ）し，より効果的な活動を自律的に成立させることのできる力を養いたい。活動の成立には，リーダーの生徒を育成すること。それ以上に，リーダーを支える周りのフォローアップできる集団づくりが不可欠であるが，このクラスにとってもそれは決して容易なことではない。フォローアップでき尚且つ自律的な集団の育成が目下の最大の課題である。まだまだ発展途上ではあるものの，望ましい集団へと向上していけるように授業者として関わっている。音楽を理知的な面から分析し考察することは，本校生徒にとって特に得意な分野だと思われるので，そうした面から生徒達を支援していきたい，と考えているところである。

題　　目　協同的な合唱の組み立て　～グループワークを通して～

本時の目標

1. 自律的な合唱活動を行うことができる。（知識・技能）
2. 自らの演奏を聴き，分析的かつ客観的に課題を発見できる。（学びに向かう力，人間性等）

本時の評価規準（観点／方法）

1. 集団として自律的かつ前向きに歌唱することができる。
（知識・技能／演奏の観察・録音の鑑賞）
2. グループ別の楽曲分析と課題設定が適切であり，それに基づいた合唱練習が進行できる。
（主体的に学習に取り組む態度／活動の観察）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
・グループ席に着席 ・基礎合唱（ハーモニー課題）	・合唱の雰囲気作り	
・前時の録音を鑑賞する。 ⇒各自が演奏課題を探す。 ⇒グループに分かれる。	・音楽要素のポイント（グループに割り振っている）についてパフォーマンスを分析し，演奏を評価できるようにグループ内で話し合う。→意見をまとめる。（発表者を決める） 見通す	・巡回指導 ・発表者決めに難航しているグループを支援する。
・ポイント①のグループの意見発表を全体共有する。→授業者が，これに関連付けた部分練習を行う。 ※別紙ワークシート参照 ↓ ・以下，ポイント②→④と続いていく。	→発表内容に関する部分練習を行う。（基本的にグループ代表者が方法を提案し練習を進める） 発表のポイントを各自楽譜に記入していく。 試行錯誤する ↓以下同じ	・具体的練習方法の提案が難しい場合は，授業者が課題と練習を上手く繋げる方法を提案する。 ※以下同様に，要所でのグループ支援をできるだけ適切に行う。 授業者は指揮者　兼　まとめ支援役。
・教材の通し練習(演奏録音)	・授業者が中心となり，まとめの通し合唱（録音）を行う。	・授業者は生徒代表者のフォロー役に回り，これまでの活動全体を踏まえてのアドヴァイスを行う。
・グループ別に自己評価し，ワークシートに記入する。	磨く・追求する	・本時のまとめと次時について （今日の録音は次時の最初に聴くこと，グループ別の演奏分析は継続していくことを予告）
備考 ボードマーカー，録音機		

2年（　　）組（　　）番（　　）

（　　）月（　　）日（　　）限　心の瞳

必修要素：どんな曲でも必要なポイント（取り組んだことに〇をしましょう）

第1次：必修要素	**音楽的要素**
A	正しい姿勢・曲想にあった表情・口の形・ブレスの取り方・響きの作り方など→歌の技術面
B	正しいリズム・フレーズの入り方と切り方・音の長さ・音の形など→楽譜に書かれていることの徹底
C	正しい音程（音の高さ）・ハーモニー・パートバランス→音取り

選択要素：練習が進んできたら、選んだテーマについて探究しましょう

第2次：選択要素	**音楽的要素**
①	声の出し方（豊かな声量）・強弱のメリハリ（サビへの盛り上げ方）
②	楽曲構造と流れの把握・クライマックスの作り方→必ずしも一番大きなところがクライマックスだとは限らない。
③	曲の背景・歌詞に込められた思い→感情面の表現
④	その他：合唱をより良くしていくために必要なこと（気の持ち方）→指揮者や伴奏者への反応など

自分が選択したテーマ要素：（　　）

具体的に調べて分かったこと、このクラスで向上のために実践できそうな方法

※箇条書きで簡潔にまとめましょう！（クラス全体で共有できるように）

実践上の留意点

１．授業説明

今年度は感染症対策の関係で合唱活動は約半年間ストップしたので，この研究大会に向けての授業計画の活動は久しぶりであった。それでも充分なディスタンスをとり，常に換気しマスクを装着しながらの活動であった。(現在は2021年末からの全国的な感染状況の悪化を受け，再び歌唱活動は停止している)。わずか数ヶ月間の活動再開であったものの，生徒たちは歌い合わせることの喜びを充分に感じつつ活動していた。この活動の中で，授業者は高等学校芸術で試みた「生徒の主体性に基づいた音楽の探究的活動」を中学校段階・歌唱領域でも達成出来ないか？という，実験的な試みを行った。つまり，対象となる教材楽曲を音楽的要素別の探究グループに分けて調べてまとめ，その結果発表に基づいてリアルタイムで授業者が合唱練習を構成する，という内容であった。いざ実践してみて判明したことをまとめてみると，予想以上に中学生と高校生の発達段階の差が大きかったこと。探究的活動を進める際に中学生の方がより綿密な準備支援が必要であったこと。リーダーを育てる必要があったこと。クラスの集団実態の差にも大きく左右されたこと，などがあった。しかしながら，共通したテーマを設定して授業を行ったことは今後の糧として得るものも大きかった。更に発展，同一のテーマで授業展開を行って研究を深めていければと構想している。

2.研究協議から

質問と感想＞生徒たちの主体的な動きは良かったが，時間が圧縮されグループ協議や歌唱をする活動の場面が少なかったのが残念だった。

授業者＞それは私も同感である。以降の授業に繋げていくので，より流れを精選し活動自体を膨らませていきたい。